

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第1号病害虫名 : チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

1 発生作物 植木類 (ガマズミ、グレビレア等)

2 発生地域 北部地域

3 発見の経緯

(1) 令和7年4月、北部地域の植木苗施設栽培ほ場において、新梢に産卵痕が付けられ、枝の伸長抑制やすす病による被害が見られた。採取した卵(図1、2)をふ化させ(図3、4)飼育し、得られた成虫(図5)を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

(2) 府内では本虫による農業被害が確認されたのは今回が初めてである。

4 国内の発生状況

本種は中国原産であり、平成29年に大阪府で初確認されて以降、府内各地の灌木類で発生が拡大しており、頻繁に目にするようになってきている。

国内では関東以西の本州、四国及び九州の各地で発生が報告されている。

農作物における被害は、令和6年に神奈川県、埼玉県、福岡県、山梨県、令和7年に東京都、群馬県、熊本県、富山県、千葉県で確認され特殊報が発出されている。

5 形態と生態、被害

(1) 形態

成虫(図5)の体長は7~14mm程度、前翅長は約14mmで、茶褐色~鉄さび色である。前翅前縁中央部に三角形~半円形の白斑があるが、白斑の形状には個体差がある。

幼虫(図3、4)は白色で、腹部から白い糸状の毛束が広がっている。枝内部に産卵された部分(図2)の表面は毛状の白色ろう物質で覆われている(図1)。

本虫の成虫はガのように見えるが、カメムシ目に属しアブラムシやウンカ、セミに近い昆虫である。

(2) 生態

本種は極めて広食性であり、多くの木本植物やキク科の草本植物に寄生する。果樹では、リンゴ、モモ、カキ、カンキツ、クリ、ブルーベリー等での発生が報告されている。成虫は寄主の枝に産卵し、成幼虫ともに新梢を吸汁する。日本における年間世代数など、生態は不明である。

(3) 被害

集団で樹木の枝を吸汁し、その排泄物にかびが生えすす病を誘発するため、果樹では果実の外観品質を損ねる。また、成虫は直径10mm以下の細い枝を割いて産卵するため、枝が損傷し、伸長抑制や

枯死により樹木を衰弱させる。

6 防除対策

(1) 本種に対して登録のある薬剤は無いため、産卵された枝の除去に努めるなど、個体数を減らす耕種的・物理的防除を行う。



図1 グレビレア上に産卵された様子



図2 枝内部に産み付けられた卵



図3 ふ化直後の幼虫



図4 中齢幼虫



図5 成虫